

友生小だより

伊賀市立友生小学校 学校だより №.13 2025年11月7日



3年生 川口さんとの出あい学習



10月15日(水)、3年生が伊賀市人権生活環境部
人権政策課の川口素生さんに、お話を聞かせて頂きました。川口さんは、「それまで人権について真面目に考えてこなかった自分が、仕事を始めてから人の関わりの中でその大切さに気付き学ぶようになり、そこで初めて、それまでの自分を振り替えることができた。」と、これまでのご自身の体験をもとに、学ぶことの大切さを話してくださいました。そして、みんな

が安心して過ごせるクラスを作るために、「一つめは、人の気持ちを想像してみること。もう一つは決めつけやうわさを信じるのではなく、自分で確かめてみること。そして自分を振り返ってみること。」とお話しして頂きました。この後、今日学んだことを一人ひとりが考え、なかもと話し、日常に活かせるように学習を深めていきます。

4年生が和太鼓の体験学習を行いました。

10月21日(火)、和太鼓奏者の服部博史さんをお招きし、4年生が和太鼓を体験しました。

4年生は、服部さんとは初めての出あいになります。まず、しっかり準備運動して体と気持ちをリラックスさせ、持ち方や構え方、姿勢などを教わります。その後、2チームに別れ、服部さんのアドバイスをもらい、交互に入れ替わりながら演奏しました。気持ちよさうに体でリズムをとって楽しみながら、最初にできなかつたことができるようになっていく喜びに夢中になる、あっという間の2時間でした。

子どもたちは、和太鼓体験を通して自信や達成感を味わうことができたようです。



6年生 松村さんとの出あい学習



10月22日(水)、6年生が、公益財団法人「反差別・人権研究所みえ」(ヒューリアみえ)の松村元樹さんをお招きし、出あい学習を行いました。松村さんには6月24日にもお話を聴かせていただいており、今回で2回目の出あいとなります。

前回、「自分を安心して出せる、話せるクラスになつてほしい。これから自分はどうしていきたいのかを考えてほしい。」とメッセージをもらってから、この日まで

学習を続けてきた子どもたちは、松村さんに会うのを楽しみにしていました。

松村さんは、前回の学習を踏まえながら、社会にあるさまざまな差別の不合理について、部落差別をなくす思いについて、仲間の大切さについて、ご自身の体験や具体的な例をあげながら、ひとつひとつ丁寧にお話を聞かせてくれました。

～子どもたちの学習後のワークシートより～

- 差別を無くすために大切だと思ったことは、学ぶことと、近くの人やまわりの人に学んだことを伝えていくことと、みんなで学習に取り組むこと、違いを正しく理解して偏見や固定観念をなくすことだと思います。
- 「差別する人を育てる方法は、何も教えないこと。差別を残し、酷くする方法は、何もないこと。」と聞いて、私は差別をなくすために学び続けていきたいと思いました。
- 「差別される人がいるから差別する人がいるんじゃなくて、差別する人がいるから差別がある」ということがわかった。
- 今まで「気にしないで」という言葉は、人を励ます言葉だと思っていたけど、人のとらえかたによっては、その人の気持ちを放置するようなことに聞こえてしまうということがわかった。
- 行動しないと何も変わらないし、行動しないと差別を残すことと同じなので、自分から差別やいじめをなくす行動や、人権を守る行動をして、次はそれをみんなに広める。
- 話を聞いただけで何も行動しなければ意味がないので、私は今日の話で自分が差別をなくす方法を考え、それを行動に移していくこうと思いました。
- 私も、変なネット情報にふり回されていないかもう一度見直して、いろんな人に教えようと思った。また、個人で復習して、もっと人権について知ろうと思った。